



曆
略
註

曆
略
註

奴
 1020
 1-1



二奴
1020
卷

高田
圖書

劉卜子先生講釋の席もかく
て聴受と多む日
圖書のたよりとるれ

曆略註

此小冊の曆乃表をわらうが
あるゆへこそとあふく
阿し其外何事にも
明くふ志あり

五月
福

150

右北四方のついでに曆のちりあふくこれの方角をいふも曆は見え人毎
 八方より外これを用ひざるは方角のたふはかたきと違ひ是より
 北四方の星とくく顯し至れば園公とく是を方角の意とて

○三鏡寶珠形乃方

○天皇玉女の方諸願成就乃方也何事もさるるをたふたり
 ○色星玉女の方彩衣衣服と衣初同裁を向はし又洗の納合は正也
 ○多願玉女の方旅之門出社ののち向く若く又諸事出るといふは
 右三鏡方は西座に毎月かたけし則たみんかてこれと出
 正月 ○天皇 乙の方 ○色星 辛の方 ○多願 天門の方
 二月 ○天皇 甲の方 ○色星 丙の方 ○多願 庚の方
 三月 ○天皇 乙の方 ○色星 丙の方 ○多願 丁の方

四月	○天皇 丁の方	○色星 癸の方	○多願 天門の方
五月	○天皇 甲の方	○色星 丙の方	○多願 庚の方
六月	○天皇 甲の方	○色星 乙の方	○多願 丁の方
七月	○天皇 人門の方	○色星 風門の方	○多願 鬼門の方
八月	○天皇 壬の方	○色星 天門の方	○多願 風門の方
九月	○天皇 辛の方	○色星 壬の方	○多願 癸の方
十月	○天皇 人門の方	○色星 風門の方	○多願 鬼門の方
十一月	○天皇 壬の方	○色星 人門の方	○多願 鬼門の方
十二月	○天皇 庚の方	○色星 辛の方	○多願 癸の方

右其月の節より次の月は昔のほ日とて一月として用ひて
 鬼門金神ふさぐま乃方めても用ひてさるるなり

右土公の位と方とがせは、殃ひをいり多し、技なり、其時、土公の
 なを、さうとうと、さうと、思ふ、遊行の目を用ひ、則ち、左、右、と、
 甲子の日より己巳の日まで六日乃る、北の方、遊行す、小土
 庚午の日より丁丑の日まで八日乃る、南の方、遊行す、大土
 戊寅の日より癸未の日まで六日乃る、東の方、遊行す、小土
 甲申の日より癸巳の日まで十日乃る、南の方、遊行す、大土
 甲午の日より己亥の日まで六日乃る、南の方、遊行す、小土
 庚子の日より丁未の日まで八日乃る、南の方、遊行す、大土
 戊申の日より癸丑の日まで六日乃る、西の方、遊行す、小土
 甲寅の日より癸亥の日まで十日乃る、南の方、遊行す、大土
 右、左、の、方、に、遊、行、す、と、云、遊、行、乃、見、と、小、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、
 其、存、を、と、ら、と、う、と、う、と、を、し、て、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、
 少、壯、の、日、候、と、う、候、湯、水、を、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、
 と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、
 〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

乾の隅、成、か、ん、と、天、門、と、坤の隅、と、り、て、人、門、と、巽の隅、成、か、ん、と、
 風、門、と、良の隅、成、か、ん、と、鬼、門、と、乾、坤、巽、乃、方、さ、り、た、ら、ん、と、
 曆、と、さ、り、た、ら、ん、と、鬼、門、の、一、方、づ、り、に、一、方、づ、り、に、一、方、づ、り、に、
 〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

正月、大、建、戊、寅、心、宿、值、月、胃、宿、土、曜、值、朔、日

戊、寅、小、建、と、小、斗、乃、星、の、ひ、ふ、方、に、遊、行、す、と、大、土、

月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

〇月、遊、行、す、と、大、土、の、方、に、遊、行、す、と、大、土、

- 東、角、亢、氏、房、心、尾、箕
- 北、斗、牛、女、虚、危、室、壁
- 西、奎、婁、胃、昂、畢、觜、參
- 南、井、鬼、柳、星、張、翼

七曜。日曜星。月曜星。火曜星。水曜星。木曜星。金曜星。土曜星あり
 閏八月小 隨節即用之 柳土曜の朔日の宿曜と云ふべし
 節と中其月小なり有り因月其方一星小なり隨節即用之と云ふ
 一休なり其月の節より次の月乃節までと月と云ふは因月其内小
 ありありの月ひさるを柳土曜の朔日の宿曜と云ふべし

○中殿下名目の日

古書始

是より讀書と云ふは最上の室なりゆいひ日小なり其書を
 書けりて其書を惠方と云ふは其書を去れりて元日なり日
 十亥あり是は二日小書始と云ふは其日小書始と云ふべし

八專

壬子の日小なり癸亥の日小なり此都合十二日ありその内に
 同日四日あり此八專といふは六十干十を以て其日小なり性日八日
 是なり此日は家作柱立と云ふは一婚祀家来といふは
 又賣買と云ふは物成仕と云ふは其日小なり

十方暮

甲申の日小なり癸巳の日小なり此十日のあり此同ハ
 十干十支相起して天地八方なり星から身以て十方暮と

此日は假事と云ふは其日小なり此日は假事と云ふは其日小なり

天一天上

天一天上の日より十六日の日天上小夜ゆして十七日自巳酉の
 日下界へ下りたまふなり

天一星

己酉日より甲寅日まで六日の日丑寅の方に居る
 乙卯日より己未日まで六日の日東卯の方に居る

水の神

庚申日より乙丑日まで六日の日辰巳の方に居る
 丙寅日より庚午日まで六日の日南午の方に居る

天一星

辛未日より丙子日まで六日の日未申の方に居る
 丁丑日より辛巳日まで六日の日西酉の方に居る

天一星

壬午日より丁亥日まで六日の日戌亥の方に居る
 戌子日より壬辰日まで六日の日北子の方に居る

天一星

癸卯日より癸巳日まで六日の日天上小夜ゆして戌申の日まで十六日のあり

天一星のありて

ひがん

此日二月中より六日までは八月中より一日は入るんを合ふ
て七日の間はひがんに昼夜をうするの節なるはひが
悪事とをうするをうするをうするをうするをうするをうする

杜日

二八月あるはこれの節二月中の日といひ月の中の日といひ
の日あり此日農民の土の徳をうするをうするをうするをうする
物とをうするをうするをうするをうするをうするをうするをうする

八十八夜

正月節の日より八十八日あり草はよりみけはあつる霜あり
を枯れしむゆえり庭の樹木をうするをうするをうするをうする

入梅

二月節の後より八月節の日より六月節の日より八月節の日より
おくれすく二十一日はあつるをうするをうするをうするをうする
ふもをうするをうするをうするをうするをうするをうするをうする

半夏生

夏の中より半夏生は草はよりみけはあつる霜あり六月節の日より
農民の田と樹をうするをうするをうするをうするをうするをうする

初伏

此日此日お秋井戸蓋とて一夫より毒氣をうするをうする

此二日夏の火と秋の金と越すか日されゆえ人の身
身とをうするをうするをうするをうするをうするをうするをうする

土用

春夏秋をうするをうするをうするをうするをうするをうするをうする
茶のうするをうするをうするをうするをうするをうするをうする

二百十日

正月節より二百十日目あり秋の氣十ふん
うするをうするをうするをうするをうするをうするをうする

節分

立春のお日かをうするをうするをうするをうするをうするをうする
時節より陰氣退り陽氣をうするをうするをうするをうする

○中殿

十二直といふことこの内より身一り用ひま
日しをあり

建

○吉

○大吉あり故に神をゆくり元服柱立む縁上金縷をせよ
あしきき衣服と忌をせよひら木さつりか
○土氣うばに養乃内よりおん出始其のりはよあわし

除

○半吉

○不浄とくし茶とのし物たのみま井をりよ
○婚禮あしむる夫妻あひ初むはらひあり金銀とゆい
あやとあし

満

○吉

○まはしきむ立こんれだんぶくた縁まはる万り
さつりか
○おんうらうらう人とりをのそむむおありあし

平

○吉

○家けくりにまーげんぶく婚れ妻買ま用ひく
○川儀成りりそ外とをとうとをみあし

定

○小吉

○祈松真出り草本様と木にあし
○えんをた縁また井なり家作あさつりか

執

○小吉

○人り理屋成つひしり出入事とれ八万り
○縁まらるる人まをまはらひしりいんぶくた縁まらるる
ま一切あし

破

○凶

○縁はくまな縁また酒成つくるを神をまらり本成まり
婚はる木あり

危

○凶

○山へのり松のそま外疾けあはし
○縁まらるる人まをまはらひしりいんぶくた縁まらるる
そせりまふあし

成

○小吉

○又く縁まらるる物賞つて家づりりつとまらるる万りか
○縁まらるる人まをまはらひしりいんぶくた縁まらるる
そせりまふあし

納

○半吉

○門をさく井成りりた縁また家つりりまはらるる

開
●半吉

冠服木万さるりあり
●葬礼木すく不祥の来ぬあり
○金銀をせらるる家瓜ふらぬ墓をほきし願をつらぬ
み用ゆるに
●家はくま又ハ卦象とそを来ぬあり

○下段

右の中だんと此下段らぬとく見まひせく
そ日乃吉凶瓜をさるり

天赦日

此日極上大吉日なり此ノ曆乃中ふありとあり一ノ年
又日乃六日あり日なり中辰乃日なりありと天ノ七日
なる二切何事ありとそをさるり大吉日なり

大明

上乃吉日なり家依りて出れ入るる本法事さるる
一但一外の凶日と同日なる中の中吉日なり

天恩

天より万物成るる日なり終日ありと日なりと月なり
さるり吉日なり但一外の凶日と同日なる中の中吉日
と同日なる中の中吉日なり

母倉

地より善物と生し出ると日なる此ノ諸事さるる吉日なり
但一介乃凶日と同日なる中の中吉日なり

月徳

其月乃福と生し出ると日なる此ノ諸事さるる吉日なり
さるり吉日なり但一外の凶日と同日なる中の中吉日
と同日なる中の中吉日なり

神吉

神を奉りて遷宮熱く神瓜まらりて吉日なり
凡八宿の中ノ鬼宿瓜ぬる日なりと日なり大吉日なり何事あり
かてとそをさるり

鬼宿

旗を金銀と貸出とあり一儀ハ之れと儀ゆえんれ
葬れおんじり

復日

かてとそをさるり

重日

吉日なりとそをさるり葬礼種まらぬとあり

血忌

物乃いのらぬと針灸治ふぬあり

大禍

こかた悪き日なり何事とかりて成程せば此の旨
ていざらひとかり

狼藉	此日とれるしくわしき日あり何ぞと成なりともを ちりてそのつど百車出あり
滅門	世日小支とるせうゆし其家ちちふ火はしむぎなり 右大禍狼藉滅門ハ三途の悪日あり
天火	棟あげ屋根ふこままら家作の車夫けかりとあり なり外ハさりなり
地火	地形ハとん柱支ふまをく忌下種まら墓而とけき葬礼 ホの車すく土灰うごるとふありそ外ハさりなり
歳下食	其年かろて脾胃和せられ日なり依之と一日大食大酒 とろくは不食乃のとも食とをかすま々年かろちふ日 あり日なりはくはあり
下食	これハ脾胃の和せられ日なり故に忌げしはやく小ま一 もろくははくはありそ外ハ法りなりなり
何の時	ゆとそちちとつ日なりゆえ極り門でえ祀ホ法り りの狐やとふあり
性亡	

歸忌	降成成ゆしとゆえ極りつま一又金根をかりつ 車夫ハ法りしむべ
凶會	わしき車にのりまれといふ日るま一切の車夫用ひとわ さりなり吉日と同日の秋ハ中の凶日なり
又墓日	十二運の内墓乃運もわさる日なりかろゆふ地まろり門で種ま 墓所をつれ種徳ホも外土灰うごるとふ甚とありさろを 人ハ生も性より差いなり性からえはさりなり
其生れの日	本性の人の己未の日又墓日 火性の人の丙戌の日又墓日
小の毎て拜せ	土性の人の戊辰の日又墓日 金性の人の辛丑の日又墓日
又又又日	水性の人の壬辰の日又墓日
受上死	ろろハ中あくの天凶日あり故小ハくのてくまアありて より小者あるとれとたしつろく悪日あるゆへなり
十死	よろく諸事不用也つらげ ろろ日ハはきてありさ日なりこれハ善惡もふまろあり され人何事めし月いべし

日そく

日そくは合朔のつひく日と月とのつひくをあらわすにせり。下り見て細
乃下は月の影をあらわして、廻り日影のひろくをあらわすにせり。何分
の日そくは、日月の影をあらわすにせり。日影の影は、水越水と、廻り日影も、氣ある
るにせり。此の影をあらわすにせり。

月そく

月影のひろくは、一日の光のつひくをあらわすにせり。月影の影は、水越水と、廻り日影も、氣ある
るにせり。此の影をあらわすにせり。日影の影は、水越水と、廻り日影も、氣ある
るにせり。此の影をあらわすにせり。

文化元年出 立表測景定節氣者

此のそくは、曆の宗あるにせり。長さは八尺のふゆ、立上り月中と、
月中宗の影をあらわすにせり。曆の影をあらわすにせり。立上り月中と、
立上り景の影をあらわすにせり。節氣と定むるにせり。立上り月中と、
天子（奏）同なりて、其のら板本は、鐵く、教回校合ありて、諸國へ
頒行し、文化元年出せりとあり。

右之外、其月乃節と中と、此は四氣と、いひく、曆の八節（小用）も、
事なり。是れを日そくの吉凶あるにせり。殊小の節と、解と、
小のそくは、小紙上り、其の影をあらわすにせり。立上り景の影をあらわすにせり。
乃席、此小冊をあらわすにせり。立上り景の影をあらわすにせり。立上り景の影をあらわすにせり。
曆日詳解大全との書、近き内、先生著述して、出板あり。此
奥儀の書の影をあらわすにせり。立上り景の影をあらわすにせり。立上り景の影をあらわすにせり。

于時寛政十二歲次庚申秋九月十日日上梓發行

東都劉卜子先生口授

門人 金陸堂 藤田善伸藏板

三十一

白
山
村
福
田

山
村
福
田

書肆

文刻堂

僊鶴堂

本石町三丁目

西村原六

通神町

鶴屋喜左衛門

山

山



一曆
略註